

* * * *

トベラ *Pittosporum tobira* (Thunb.) Ait. とその近縁種—M. Gowda の Tobira-complex—の個々に関しては、多くの報告があるが、その取扱いはそれぞれ異なる。最近著者は本州各地のほか、琉球、小笠原のトベラを野外で観察する機会を得た。また、これらの地域のほか、中国、朝鮮、台湾産の腊葉標本を多数見ることが出来た。今回はその結果認められた 6 種、3 変種（新名と新組合せを含む）について報告した。

Tobira-complex は花序の形態と分岐の回数、花と葉の形態の相違から、大きく、*P. tobira*, *P. lutchuense* の 2 グループに分けられ、花序や若枝、葉裏脈上の毛の形質や量から、それぞれのグループ内で更に 2~3 の小グループが認められる。毛の形質にも 2 型が認められその質的量的な移行は、北は朝鮮、南は九州南部まで及んでおり、屋久島の南トカラ列島に、他の形質も含めた両種の境界があると思われる。小笠原産の種（特に *P. boninense*）は琉球産の *P. lutchuense* var. *denudatum* との関連が考えられる。

□Falkowski, P.G. (ed.): **Primary Productivity in the Sea**. Environmental Science Research, Vol. 19. ix+531 pp. 1980. Plenum Press, New York. ¥18,400. 1) 藻類の一次生産の展望, 2) 藻類によるエネルギー転換: 色素と光の利用, 3) 藻類による物質の転換: 栄養の吸収, 4) 藻類の生長速度, 5) 海の一次生産, 6) 物質の再循環の 6 章から成る。地球の全一次生産量の約 30% を占める海の生産力をよく理解するために行われた藻類の生理学と波動力学に関する学際シンポジウムの講演集であり、従って分類に直接関係する章はない。しかし最近の藻類の分類・類縁の考察には色素や光合成をはじめ、生理、生化学に関する諸形質が重要な基準にとりあげられていることから、藻の分類に携わる人や藻に興味をもつ人達にとっても学ぶべきところがある。
(千原光雄)

□Duke, J. A. (ed.): **Handbook of Legumes of World Economic Importance** 345 pp. 1981. Plenum Press, New York. \$54. 種子植物の中でマメ科は最も多種類の有用植物を含むが、その中から特に重要な 150 種を選びだし、その全部について学名、英名、主なシノニム、簡潔な線画、および利用法、形態的特徴、分布、生態など多くの事項についてのデータが整理されている。全体がよくまとめられており、形態的な特徴についても花、豆果、種子に重点を置いた記載となっている。USA を主とする 65 名の著者の共同執筆で、良い仕事をしている専門家がも多く、その力が適切に生かされた好著である。やや大型であるが (28×22 cm)、造本、印刷がよく、読みやすい。

(大橋広好)